

## ごあいさつ

日頃、皆さまには格別のご愛顧をいただき厚く御礼申し上げます。

JAあいら伊豆は、情報開示を通じて経営の透明性を高めるとともに、当JAに対するご理解を一層深めていただくために、当JAの主な事業の内容や組織概要、経営の内容などについて、利用者のためにわかりやすくまとめたディスクロージャー誌「2016JAあいら伊豆現況のご報告」を作成いたしました。皆さまが当JAの事業をさらにご利用いただくための一助として、ご一読いただければ幸いです。

おかげさまをもちまして、JA あいら伊豆は平成 28 年 4 月、合併 20 周年という節目の年を迎えることができました。これもひとえに、皆さまのご理解・ご協力の賜物であると、役職員一同感謝申し上げます。

さて、農業情勢を振り返りますと、農家の高齢化や後継者不足による農業者人口の減少、耕作放棄地の増加、さらにはTPP交渉（環太平洋経済連携協定）の大筋合意や改正農協法の施行など、我々農業関係者を取り巻く環境は厳しいものであり、かつてない大きな転換期を迎えようとしています。

こうした中で、平成 27 年度は自己改革実践計画に基づき、柑橘類・キウイ・いちじく共販出荷者を対象に少量多品種・多品目栽培の提案、いで湯っこ市場での地場産品率の向上や管内農産物の学校給食や管内宿泊施設への納入等、地産地消、販路拡大に向けた取り組みを通じ、農業所得向上に取り組んでまいりました。また、施設面においては、昨年 9 月に伊豆山支店をリニューアルし、組合員・地域の皆さまの利便性向上に努めてまいりました。

平成 27 年度の決算につきましては、大変厳しい環境下ではありましたが、皆さまのおかげで、税引前当期利益で 1 億 2,228 万円（前年度対比 112.5%）を確保することができました。

平成 28 年度は、3か年計画「～次代へつなぐ協同の力～」の最終年度として、JAあいら伊豆の 10 年後の将来像である「農業を主軸とした地域農業協同組合」をめざし、「農家組合員の農業所得の向上」、そして、組合員のために最大の奉仕をするための基礎となる「経営の安定化」という改正農協法の大きな 2 本柱の実現に向け、各事業を通じ、役職員一丸となり取り組んでまいりますので、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成 28 年 7 月

あいら伊豆農業協同組合

代表理事組合長 土屋 壽良